子どもの要求との間にはさまれて、教師はどのようにすればよいのだろうか、第一に教師は、クラスの中での社会的経験を徐々に拡張し、子どもが自分の感情を表出する時間を与えることが必要である。

第二に、子どもを混乱させ、困惑させるものは、おとなの世界の矛盾であり、おとなが与える不安や恐怖であることを知り、クラスの生活の中で、子どもたち自身が、秩序を発見してゆくことを助けなければならない。

幼児教育学の教授、アグネス・ハートフィールドは、教師の重要性について、次のように述べる。

現代は、人生に意義と満足を見出している者の少い時代である。このような時代にこそ、われわれは、創造的に、建設的に、情熱をもって生きる教師を必要としている。次の世代に道をなす教師は、自分自ら、道を見出していなければならない。

子どもは、朝、幼稚園、学校にくるとき、さまざまな思いを抱き、またいろいろのものを携えてくる。ある子どもは、亀をもってきて、床を歩かせ、集ってきた数人の子どもとそれをみてたのしんでいる。ある子どもは「ぼくは先生が大好きだ。だって、先生の顔がわかるんだもの」といった。先生が、おはなしをするとき、子どもたちは、先生の顔から喜びや、悲しみや、何に関心をもっているかを理解することができるとき、子どもは、先生を理解しているのである。「先生、ぼくのセーターの袖をまくりあげてちょうだい。ぼく、指がしゃぶれないから」とある子どもが訴えてくる、先生は、その子の袖をまくり上げてやるのである。友だちと遊び疲れた子どもが、ためいきをついて先生のところにやってくる。「ぼく、抱っこしてほしくなっちゃった」先生は、いつも、そのような子どもを抱き上げてやる用意がなければならない。子どもは、そこに気持ちのやすらぎを感ずるのである。

「あたし、今日も、良い気持ちをもってきたのよ」といって、女の子が、好きな麦わらぼうしをもって、にこにこして幼稚園にきた。好きなものを、家からもってきて、もってかえるとき、彼女は、しあわせな感情を家から幼稚園にまでもってくるのである。

教師は子どもの感情に、敏感でなければならない。

（T）

幼児の教育　第六十四巻　第八号

八月号　©　定価六〇円

昭和四十年七月二十五日　印刷
昭和四十年八月　一　日　発行

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
編集兼発行者　津　守　真

東京都文京区大塚町三五
お茶の水女子大学付属幼稚園内
発行所　日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五
印刷所　凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所　株式会社　フレーベル館
振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします。